

2021年10月22日

**久御山町、日産自動車、日産京都自動車大学校、  
電気自動車を活用し、脱炭素化と防災力強化に向けて連携  
～京都府内初、自動車大学校を含む初の「災害連携協定」を締結～**

久御山町(京都府久世郡久御山町、町長:信貴 康孝)と、日産自動車株式会社(本社:神奈川県横浜市西区、社長:内田 誠)、京都日産自動車株式会社(本社:京都府京都市南区、社長:奥田 俊彦)および専門学校日産京都自動車大学校(京都府久世郡久御山町、学長:本廣 好枝)の4者は、22日、電気自動車を活用した「災害連携協定」を締結しました。

本協定は、久御山町で災害による停電発生のおそれがある場合、日産の販売会社および日産の自動車大学校から貸与する電気自動車(EV)「日産リーフ」を電力源とした災害時の電力供給体制の構築と、EVの「走る蓄電池」としての価値の普及を目的とした協定で、ゼロ・エミッション社会の実現を目指す日産の『ブルー・スイッチ』活動としては146件目の取り組みとなります。また、京都府内での締結は初となり、今回、日産の自動車大学校を含む、災害連携協定としても初の事例となります。

**【協定の経緯・背景】**

久御山町は、環境対策や、防災対策に取組み、持続可能で強靱なまちづくりを目指しています。また、SDGsの推進やさらなる地方創生につなげることを目的に、内閣府が設置した「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」に参加するなど、SDGs推進にも積極的に取り組んでいます。

一方、日産自動車は、EVならではの新たな価値やワクワクを提供し続けるとともに、2018年5月より、EVの普及を通じて、環境、防災、エネルギーマネジメント、観光、過疎などの地域課題解決を目指す、日本電動化アクション『ブルー・スイッチ』を、全国の自治体や企業、販売会社などと共に推進しています。また、2030年代早期には、主要市場で投入する新型車すべてを電動車両にすることを宣言、電動化をリードしながら、SDGsの達成やカーボンニュートラルの実現に向けた取り組みを加速しています。

この日産が推進する『ブルー・スイッチ』、そして、久御山町が推進する環境・防災対策やSDGsの推進と、双方の取り組みに相互が賛同し、本協定の締結を行う運びとなりました。